

大飼温泉

と見て夢さめぬ、おどろきてよあけて、ひとくにつげまはしければ、人々き、つぎて、その湯にあつまることかぎりなし、ゆをかへめぐりを掃除ししめを引、花香を奉りて、ゐあつまりてまちたてまつる、やうく、午時すぎ、ひつじになるほどに、たゞこの夢に見えつるに露たがはず見ゆる男の、かほよりはじめきたる物馬なにかにいたるまで、夢にみしにたがはず、よろづの人にはかに立てぬかをつく、このおとこ大におどろきて、心もえざりければ、よろづの人にとへども、ただおがみにおがみて、その事といふひとなし。○下

〔類聚名物考 地理三十五〕大飼御湯 いぬかひのみゆ 信濃國 安曇郡

〔和漢三才圖會 六十八〕犬養山 安曇郡

犬養温泉 筑摩郡 那須温泉 七久里湯 諏訪温泉等、處處有湯、

〔拾遺和歌集 七名〕いぬかひのみゆ

鳥のこはまだひな、がらたちていぬかひのみゆるはすもりなりけり

七久里温泉

〔書言字考 節用集 一〕七久里湯 信州筑摩郡

〔類聚名物考 地理三十五〕七久里湯 な、くりのみゆ 信濃 一云 伊勢 ○中

今案に、信濃國人の云、今名目栗といふ村有湯の所といふ、今は湯出ずといへり、伊奈郡の中なりといふ、猶可考、○中

契沖名所補翼抄に云、六帖に、かみつけやいちしの原とよめり、此二首いちしなると有れば、此湯もしそこに有にや、此湯は信濃

或人云、伊勢國一志郡に出湯有り、今は榊原の湯と云ふ、此所歟、俊綱歌に、かひなきと讀たるは、榊原の湯の邊の山より、石貝とてさま々、介のかたなる石出れば、夫をよめる乎、

〔輜軒小録〕七くりの湯之事